ST 通信

第 23 号

　例年にない暑さを感じた長い夏がようやく一段落しました。子どもたちは夏休みが終わり、学校に通う生活リズムを少しずつ、取り戻しているのではないかと思います。
　凜では夏休みにいろいろな活動を実施しました。初めて体験したお友だちもいたと思いますが、楽しそうに取り組む姿をたくさん見ることができました。この経験を、今後の活動にもいかしていきたいと思います。

～ことば遊びの時間～

　凜で子どもたちが宿題をしているのを見ていると、文字を書いている姿をよく見かけます。書字は目と手を連動させて行う動きが必要になるため、高度な操作が求められます。書く動作で文字を覚えるだけでなく、日常の中で、「〇〇ちゃんと同じ〇だね」など、身近なもの同士でマッチングさせて、文字を意識できる機会をつくるのもいいと思います。

体を使って遊ぼう！

　前にも本通信でお伝えしたことがありますが、言葉が出るために大切な要素として、運動面の発達があります。それは言葉を出すための器官である口は、体の一部であり、その複雑な動きにより、いろいろな声が出せるようになるからです。
　凜の中で、夏休み中にラジオ体操をしている事業所があり、普段見ることがない、子どもたちの姿勢や動きを見ることができました。最近、言葉が明瞭になってきたと感じていた子どもが、ジャンプやケンケンをしている姿を見て、あらためて、しっかりと体を動かして遊ぶことが、言葉の発達にとって大切なのだとあらためて感じました。